

## 情 報 公 開 文 書

研究の名称	内視鏡的病理診断で確診に至らなかった悪性胆管狭窄疑い症例をどう扱うか？
整理番号	
研究機関の名称	富山大学附属病院
研究責任者 (所属・氏名)	富山大学附属病院 第三内科 安田一朗
研究の概要	<p><b>【研究対象者】</b> 悪性が否定できず内視鏡的病理検体採取を行った胆管狭窄症例を対象としています。</p> <p><b>【研究の目的・意義】</b> 悪性胆管狭窄疑いに対する内視鏡的な病理診断感度は約70%と報告されており、約3割は病理学的確定診断が得られないまま治療開始あるいは経過観察が行われています。また、診断が困難なために、手術や化学療法などの決定的な治療が遅れたり、誤った治療が行われたりすることがあり、その結果患者に不利益をもたらす可能性があります。そこで、当施設における診断困難な胆管狭窄症例において ERCP 病理診断陰性例に対する対処を検討することでそれぞれの有用性や問題点を抽出し、悪性胆管狭窄疑い例に対する適切な対応を探索することを目的としています。</p> <p><b>【研究の方法】</b> 本研究は2018年6月1日から観察期間（研究実施予定の2027年3月31日）に悪性が否定できず内視鏡的病理検体採取を行った胆管狭窄症例を対象として、カルテなどから臨床情報を収集し解析を行います。</p> <p><b>【研究期間】</b> 実施許可日 ～ 2027年3月31日</p> <p><b>【研究結果の公表の方法】</b> この研究の解析結果は、専門学会への発表、論文化を通じ公表されます。</p>
研究に用いる試料・情報の項目と利用方法 (他機関への提供の有無)	本研究で用いるデータの管理は、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。また対応表は研究責任者並びに分担者が保管・管理します。また、本研究で使用するデータ（病理結果、治療方針、最終診断）はカルテ上に存在する検査画像やレポート、診療記録等を使用します。
研究に用いる試料・情報を利用する機関及び施設責任者氏名	富山大学付属病院長 林篤志
研究資料の開示	研究対象者、親族等関係者のご希望により、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で研究計画書等の研究に関する資料を開示いたします。
試料・情報の管理責任者 (研究主機関における研究責任者氏名)	富山大学附属病院 第三内科 安田一朗
研究対象者、親族等関係者からの相談等への対応窓口	研究対象者からの除外（試料・情報の利用または他機関への提供の停止を含む）を希望する場合の申し出、研究資料の開示希望及び個人情報の取り扱いに関する相談等について下記の窓口で対応いたします。 電話 076-434-7301

FAX 076-434-5027

E-mail hkawa82@med.u-toyama.ac.jp

担当者所属・氏名 富山大学附属病院 第三内科 大学院医員 川中滉貴